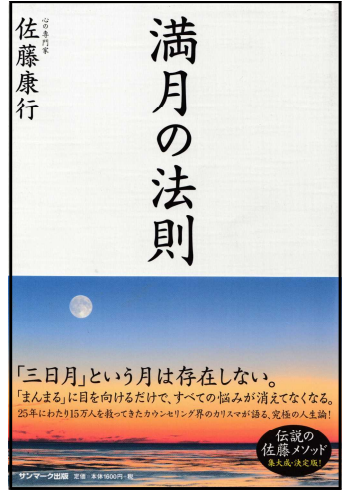




# ひらほく新聞

「ひらほく新聞」で検索!  
★おかげさまで感謝の104号★  
<http://www.hirahoku.com/>  
☆ぜひ、バックナンバーをどうぞ!

発行所 読売センター平塚北部(ひらほく) 山本 直 〒254-0013 神奈川県平塚市田村9-4-32 電話 0463-54-2807



(1600円+税 お取り寄せ、お届け可)

「あなたに欠けているものなんて、何ひとつないのです」。

著者の心の専門家・佐藤康行さんがこれまで25年以上にわた  
り、15万人以上のカウンセリングで実践してきた「満月の法  
則」。それは、「原因と結果の法則」と「鏡の法則」を超える  
単純明快、シンプルそのもの、宇宙に存在するたった一つの  
法則。みんなの心の奥にある「満月の心」、「まんまる」とは？

〜プロローグ〜

「本書の定価は百万円?」

本書を一読するだけで、「本  
当の自分」を知るといふ問題  
が瞬時に解決すると言ったら、  
どうでしょう。

「本当の自分」を知ることが  
できれば、生きていることの  
ありがたさ、素晴らしさとい  
ったものが体感できるように  
なります。どんな苦しみや迷  
い、悩みであっても一瞬のう  
ちに消え失せます。

それだけではありません。  
読めば読むほど心が浄化され、  
運命が好転します。過去も他  
人も未来も、自由に変えられ  
ます。にわかには信じられな  
いかもしれませんね。

人生には煩惱がつきもので、  
多くの人はそれを十字架のよ  
うに背負いながら生きていま  
す。それに抵抗し、悟りを開

こうと、山にこもったり、断  
食したり、滝に打たれるなど  
の難行苦行をする人もいま  
す。

そんなことなどしなくとも、  
軽やかに本当の自分を知  
りながら、すべての苦しみ、  
迷い、悩みを一瞬にして消滅  
させることが本当にできると  
したら、どうでしょう。

あなたの身に起きるすべて  
のことを「吉報」にすることに  
ができるのです。いわば、「鏡  
の法則」や「原因と結果の法  
則」を超える、人類最強の法  
則です。原因と結果を同時に  
変えて、鏡に映る姿を変える  
ことができるのです。

仮にその費用が百万円だと  
しても、たいしての人は支払  
うのではないのでしょうか。

そう、だからこの本には百  
万円の評価がある、と私は思  
っているのです。(ここまで)

これでは何かうさん臭い  
宗教?というように感じる  
かもしれませんが、次のよ  
うな内容です。

あなたも私も最初  
から「まんまる」

私たちが、夜の空を見た  
ときに目にする三日月。し  
かし、実際には三日月とい  
う月が、宙に浮かんでいる  
わけではありません。月が  
勝手に形を変えているわけ  
ではなく、実際の形は、い  
ついかなるときも球体、本  
当の姿は「まんまる」です。

それが私たちの目に三日月  
に見えるのは、太陽の光  
の反射具合によるもの。た  
また太陽の光が当たった  
部分だけを見て、三日月、  
半月、満月と言っているの  
です。

言い換えると、私たちの  
目からそう見えているだけ  
の「認識の世界」の話です。  
私たちの目がどのように  
認識しようとも、実際の月  
はいつもまんまる。これと  
同じことが人間に対しても  
言えるのが「満月の法則」  
です。

今、どんなにつらい境遇  
にあっても、またそのこと  
で嘆き悲しんでいても、そ  
れは自分や相手の三日月を  
見て、何かが欠けているよ  
うに見えるだけ。  
本当の自分は月同様、も  
ともとは、まんまる、みん

なまんまる、すなわち満月。  
誰も欠けているところの  
ない、完璧な存在として生  
まれてきているのです。

そのことに気づくと、こ  
れまでの悩みが消えてなく  
なり、見える世界が一変し  
ます。

「まんまる」に  
気づくと、人は  
一瞬で変わる

それをどう表現するかよ  
りも、「まんまる」が人間  
の心のもっとも深い部分に  
すでに存在していることを  
自覚することのほうが大切  
で、それは特定の人だけで  
はなく、どんな人の心の奥  
にも共通して存在するもの  
だということを大前提とす  
るのです。

また「まんまる」には、  
顕在意識や潜在意識とはま  
ったく異なる特徴がありま  
す。顕在意識は「損か?得  
か?」で物事を判断し、潜  
在意識は「好きか?嫌い  
か?」で物事を判断するの  
に対し、「まんまる」には  
「愛と感謝」の判断基準し  
かないことです。

たとえば、Bさんという  
人が病気になった父親を介  
護しなければならぬといし  
ます。このとき、Bさんが  
「どうせ、親父の介護をし  
ても、遺産なんてほとんど  
入ってこないし、何の見返

りもない。よし、妹に介護  
を押しつけてしまおう」と  
考えたら、これは完全に顕  
在意識の働きによるもので  
す。

しかし、なぜそう思うの  
かについては、潜在意識の  
中に次のような記憶がある  
ことが関係しています。

「子どもの頃、親父から散  
々殴られた。妹ばかり可愛  
がられ、悔しい思いをして  
きた。だから、親父なんて  
大嫌いだ」

しかし、「まんまる」に  
目覚めると、「損か、得か」  
「好きか、嫌いか」がなく  
なり、こんな思いが心の底  
から湧き上がってくるよう  
になります。

「親父がオレを殴ったのは、  
オレのことを誰よりも愛し  
てくれていたからだ。人一  
倍、心配してくれていたに  
違いない。今になって、よ  
うやくそのことに気づい  
た。お父さん、本当にあり  
がとう。感謝してもし切れ  
ない。これからは、喜んで  
お父さんのお世話をしよ  
う。お父さんと密に接する  
機会ができて本当に良かった」

にわかには信じられない  
かもしれませんが、これが  
真実です。  
私はこれまで「恨み」「憎  
しみ」「怒り」といった感  
情を抱いていた人が、魂が  
揺さぶられるような感動を  
味わうことで、一気に「愛

と感謝」の思いに逆転する  
場面をたくさん見てきまし  
た。

その人の内にある「まん  
まる」は、「愛そのものの世  
界」「感謝そのものの世  
界」「喜びそのものの世界」。  
それが本当の自分。そのこ  
とを全身で体感したとき、  
人の心は一瞬にして変わっ  
ていきます。

心の中に闇の部分があっ  
たとしたら、「まんまる」  
は光そのもの。真っ暗闇の  
部屋に電気をつけるよう  
に、「まんまる」という光  
が、闇を瞬時に光に変えて  
くれます。

実践すると次のような効  
果があるといふことです。  
・将来の不安がなくなる  
・仕事や職場の人間関係が  
うまくなる  
・夫婦間、親子間の問題が  
解決し、家庭円満になる  
・心身の病がなくなる  
・重くのしかかっていた  
過去の記憶が書き換わる  
・人生そのものが劇的に  
好転していく

書籍では、実践で劇的に  
好転した実例や、「満月」  
に気づくためのエクササイ  
ズがたくさん紹介されてい  
ます。やまとの心、日本人  
の心こそが「まんまる」そ  
のものの、「満月の心」。「本  
当の自分」を生き切るため  
の最幸のメソッドです。

心温まる書籍紹介ブログ  
『人の心に灯をともし』  
より今月もご紹介いたします。

### 【元旦によせて】

(平成31年)

小林正観さんの

心に響く言葉より：

昭和20年8月30日、ダグラス・マッカーサー元帥が日本に降り立ちました。終戦後、GHQの最高司令官として日本の占領政策を進めるために来たのです。約1カ月後の9月27日に昭和天皇が会いにくるといふことになった。

マッカーサーは、どうせ命乞いに来るのだろうと思って、自分の部屋でコーンパイをくゆらせて足を組んで待っていた。迎えには出なかったそうです。

昭和天皇は燕尾服を着てやってきて、「マッカーサー元帥、お願いがあります。ここに皇室の財産目録があります。私の命とこの財産目録を差し出しますから、日本国民のためにアメリカから食料を送っていただきたい」と言ったそうです。

マッカーサーは驚いた。今までいろんな人に会ってきたけれど、命乞いするとか亡命をするという人ばかりであって、自分の命を差し出すというトップの人には一人も会ったことがなかった、それで大変驚いたのだそうで、話をしている

うちに、この人はポーズで言っているのではなくて、本当に心からそういうふうと言っているのだと思っただけです。

命も本当に差し出し、財産目録も本当に差し出して、細かいものまで全部載っている。その財産目録を見た昭和天皇が本当に誠心誠意対応したということがわかり、マッカーサーは本國に連絡して、子供用の食べ物、特にチョコレートやチューインガムを大量に送らせました。そして、届いた食べものを米兵を使ってほとんど配り始めた。あのチョコレートとチューインガムを配っていたのは米兵の厚意であるけれど、実はその根っこには昭和天皇の一言があったのです。

マッカーサーが要請して、食べ物 came ですが、その根底は、日本国民に食べ物を与えてほしい、もっと多くのものを取り寄せてほしいと言った昭和天皇の言葉だったということなのです。

マッカーサーは、その人格に打たれて、昭和天皇が帰るときには玄関まで見送ったそうです。そして、昭和天皇の車が出て行くときに、敬礼をしたという話が残っています。

別に私は昭和天皇や天皇家を礼賛しているつもりは

ありません。ただ、人間の意識として、自分の命を助けてくれ、なんとかしてくれ、というのとは違うところに意識を持っていく人がいるということ。人間には、そんなことが可能だということなのです。

1月1日、天皇陛下は東西南北四方に向かい、正座をして、お祈りするそうです。

「今年この国に災いがあるとしたら、まず私の体を通してからにしてください。」これを四方拝といひます。

天皇家というものは、それを毎年繰り返しながら、そういうことを言い続けて100代以上にわたって生きてきた家系だそうです。そして災いを一身に浴びて、背負いきれなくて亡くなる、それを皇太子殿下が受け継いで、また災いを一身に浴びて死んでいくという、そういう家系だったということなのです。

聞いた話では、天皇陛下と皇太子殿下がヒソヒソと話をしている場面というのが結構あるそうですが、侍従長さえも、なんの話をしているのかはわからないそうです。

天皇から皇太子にだけ教えていることがある。四方拝もどうもそうらしく、わが身に全部降らせてくださ

いというのは、ほかの人に一切知らせず皇太子だけに教えていくらしいのです。それが漏れ伝わってきたのはありがたいことで、それを活字にして書いてしまったいいのかなというところはありますが、人間の魂がここまで崇高なところに行くことができる実例として、どうしても紹介しなくてはならぬので、書くことにしました。

「なぜ、神さまを信じる人は幸せなのか？」イースト・プレス

1月1日の早朝、宮中や各地の神社で早朝から「歳旦祭」という祭祀がおこなわれる。歳旦とは、1月1日の朝のことをい

が、新玉の年の初めを寿ぎ、五穀豊穡や、国家の隆盛と国民の平安をお祈りするお祭りだ。天皇陛下は四方拝をすませたあと、朝の5時半から歳旦祭を行う。明治天皇がつくられた新年にふさわしい和歌がある。

『あしはらの  
国のさかえを祈るかな  
神代ながらの  
年をむかへて』

葦原の中つ国とは、日本の古称。神代のまま変わることはない新年を迎えて、日本の永遠の栄えを神に祈る。

『さしのぼる  
朝日の如くさわやかに  
もたまほしきは  
心なりけり』

昇ってくる朝日のように、さわやかな気分を持ちたいものである。

あたかも、今朝は平成最後の元旦。今年一年、ご縁のある皆様の弥栄を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。(終わり)

このマッカーサー元帥と昭和天皇のお話は、以前2012年11月号で、伊勢修養団・寺岡賢先生の「美しいところ 日本のごころ」講演会の内容で、神嘗祭や新嘗祭など、皇室の深い「思いやりのごころ」を育む教えの学びとしてご紹介しました。

2月11日は、建国記念の日。神武天皇が即位した紀元前660年、以来今年は皇紀2679年。この日の意味を学校教育では深くは教えません。そんな重要な日に生んでいた身として、これから皇室の、日本の大切な「和のごころ」を語り継ぐべく、発信して参ります。

新元号へと変わり、日本が新たな時代へと歩を進める誠に重要な本年。あらためて有難く、皇室の弥栄をご祈念申し上げます。

## ひまわりの ひまわり

天皇、皇后両陛下が主催する平成最後の国会始の儀が1月16日、行われた。両陛下が国会始で歌を詠まれるのは今年が最後。「光」が話題の今年、陛下は、初夏の光を浴びて御所で咲く「はるかのひまわり」を詠まれた。

### 贈られし ひまはりの種は 生え揃ひ 葉を広げゆく 初夏の光に

このヒマワリは、阪神大震災で家屋が倒壊して亡くなった神戸市の加藤はるかさん(当時11歳)の自宅跡地に咲いたヒマワリに由来する。宮内庁によると、両陛下は震災10年の追悼式典で同市を訪問された際、懇談した遺族代表の少女から、鎮魂と復興の象徴として育て、増やした種を贈られた。両陛下は毎年、御所で種を採取しながら大切に育てられているという。

被災地の方々へ常に忘れず、思いを寄せる両陛下。毎年命の種の成長を見届けてきた大切な思い、「心の光」として一人でも多くの国民へ届いてほしい。

## 編集後記

一月中旬、今年度も恒例の「中学二年生の職場体験」受け入れだった。すでに10年以上継続していて、内容もかなりブラッシュアップ、こちらも毎回有難く学ばせていただいている。

夕刊の配達体験では、前日の夕刊に「明日は・・・」チラシでお知らせ、当日は「中学生が自分でこのチラシをセット、夕刊を自宅ドアポストまで配達しました！」チラシを夕刊に折り込み、現地へ同行、集合住宅の上階ドアまでの配達。自分も一人を連れて回ったが、運動部所属の元気な二人、指示通り一生懸命駆けまわってくれ、こちらも有難く、元気をもらった。

終礼前には、毎回恒例、道徳の時間。「何のために働くのか」、「命のお話」をじっくりと。折りしも成人の日の直後の日程、今回の14歳3名は、ちょうど4年後の18歳新成人。多くの兄弟がいても病氣等で何人も亡くなった江戸時代、その亡くなった兄弟姉妹の命の分まで生き抜く覚悟を決めるといふ15歳元服の意味。先祖から奇跡的に繋がり、受け継いでいる大切な自らの命。何のために、どんな思いを込めて使うのか。常に忘れずに心に刻んでいってほしいと願う。